

2020年度事業計画

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

1. 基本方針

2020年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から73年目を迎えます。

新年度も当協会は、引き続き大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに、青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、古くから活動を行う大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団運営等の公益事業の費用に充当していきたいと考えております。

これらの事業推進にあたりましては、引き続き、財政的に安定した協会運営を目指して公演数、公演入場者数、各種会員数、会館利用者数等の更なる増加に向けた取組みを優先課題として取組むことといたします。

なお、弊楽団は、2018年4月より第三代音楽監督に尾高忠明氏を迎え、定期演奏会をはじめ、ベートーヴェンやブラームスの交響曲全曲演奏会等の自主公演を通じて、芸術的価値の高い曲目を採り上げ、持ち味であるダイナミックな演奏に加え、緻密なアンサンブル能力を兼ね備えた新たな「大フィル・サウンド」作りを目指してまいりました。

また、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等に努めてまいります。

2. 事業基盤の維持・拡大に向けた2020年度の展開

引き続き、次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の維持・拡大を進めてまいります。

(1) 自立に向けた収益基盤の充実

2020年度は、ベートーヴェン、ブラームスの全交響曲演奏会に続く新たな取り組みとして、チャイコフスキー・チクルスを開催するとともに、2019年度に引き続き東京

定期演奏会を開催いたします。そのため、自主公演は、39 公演となる見込みです。また、文化庁学校巡回公演や企業等からの依頼公演は、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間 69 公演を見込み、合計の年間公演数は、108 公演を計画しております。

| 1. 自 主 公 演 (39公演) | | |
|----------------------|---------------|-------|
| 公 演 名 | 会 場 | 公演数 |
| 定期演奏会 | フェスティバルホール | 20 |
| 東京定期演奏会 | サントリーホール | 1 |
| チャイコフスキー・チクルス | フェスティバルホール | 3 |
| マチネ・シンフォニー Vol.23・24 | ザ・シンフォニーホール | 2 |
| ソフレ・シンフォニー Vol.15・16 | ザ・シンフォニーホール | 2 |
| 親子のためのオーケストラ体験教室 | 大阪フィルハーモニー会館 | 4 |
| 神戸特別演奏会 | 神戸国際会館こくさいホール | 1 |
| ドラゴンクエスト・コンサート | びわ湖ホール | 1 |
| 3 大交響曲の夕べ | フェスティバルホール | 1 |
| 京都特別演奏会 | 京都コンサートホール | 1 |
| 第9シンフォニーの夕べ | フェスティバルホール | 2 |
| 新春名曲コンサート | フェスティバルホール | 1 |
| 2. 依 頼 公 演 (71公演) | | |
| 企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演 | | 69 公演 |
| 大阪クラシック(有料・オーケストラ公演) | | 2 公演 |

定期演奏会は、オーケストラの演奏技術に磨きをかけ、コアなクラシックファンだけでなく、幅広い音楽ファンに対して弊楽団の個性と実力をアピールするとともに、音楽的な高みを目指すシリーズとなっています。2020 年度は、尾高音楽監督の指揮により、今年生誕 250 年を迎えるベートーヴェンの最高傑作「ミサ・ソレムニス」をシーズン始めの4月定期で採り上げるのを皮切りに、マーラーやブルックナーの大作に取り組む他、邦人作品や近現代のレパートリーにも目を向け、幅広い演目に挑戦してまいります。その中で弊楽団としましては、尾高監督就任当初より培ってきた基礎的なアンサンブル能力や表現力を更に発展させ、伝統の「大フィル・サウンド」を進化／深化させていきたいと考えております。

2020 年度も、共演者は若手から巨匠まで国内外の様々なタイプの指揮者、独奏者を招いておりますので、昨年引き続き、聴衆の皆さまにも魅力ある幅広い音楽体験を提供できるのではないかと考えております。中でも昨年好評を博し大きな反響を

得たシャルル・デュトワの再招聘や、エリアフ・インバル、ピアノのアンヌ・ケフェレックといった世界的な指揮者・音楽家との共演は、弊楽団が世界水準の演奏を目指していく上で大きな経験になると確信しております。

また東京定期演奏会では、前回に続き大阪フィルが創立名誉指揮者・朝比奈隆の時代より伝統的に演奏を繰り返してきましたブルックナーの交響曲から、尾高監督が最も深い思い入れを持つ「第9番」を取り上げ、進化をつづけている「尾高&大フィル」の実力をしっかりアピールしてまいります。

その他の自主演奏会では、昨年評論家からも高い評価を得た「ブラームス・チクルス」に続き「チャイコフスキー・チクルス」をフェスティバルホールにて3回シリーズで開催いたします。同演目は、朝比奈隆がドイツ、オーストリア音楽と並んで得意とし、弊団と度々演奏して来た大切なレパートリーですが、尾高監督の下、改めて演奏スタイルを根本から見直し、より高いレベルの表現を目指すことを意図して、協奏曲を前半に演奏するパターンが多いシリーズながら、今回は敢えて交響曲のみに絞った企画としています。

また、「名曲シリーズ」の一環として開催を続けております「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「新春名曲コンサート」につきましては、引き続き普段クラシック音楽に敷居の高さを感じている、あるいは、あまり興味お持ちでない方に対しても、判りやすく、親しみやすく、魅力的なコンサートとして訴求していきたいと考えております。来年度は、集客面で苦戦しているマチネの魅力アップのため、前首席指揮者の井上道義氏が得意とするマーラーの交響曲というヘビー級の作品と、尾高監督にはベートーヴェン・イヤーということで、演奏機会の少ないヴァイオリン協奏曲の作曲家自身によるピアノ編曲版とポピュラーな交響曲第7番というプログラムで、幅広い音楽ファンにアプローチしてまいります。尚、2017年度から取り組んでおりますゲーム音楽シリーズ「ドラゴンクエスト・コンサート」につきましては、昨年が続いてゴールデンウィークにびわ湖ホールで開催し、クラシックファンのみならず幅広い層にオーケストラ演奏の魅力をアピールし、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

以上のような演奏会の充実に加え、ファン層拡大を企図した様々な施策についても実施してまいります。

また、第14回予算理事会で決議を頂きました消費税増税に伴うチケット料金改定につきましては、2020年度の演奏会より実施しております。

楽団員の顔写真や各種会員制度を掲載する等、2019 年度に内容を全面的に刷新した「年間総合パンフレット」につきましては、引き続き各種会員の勧誘時等に積極的に利用してまいります。

会費収入の増収に向けては、2015 年度より新たに設置したパトロネージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーに効果的に活動頂いている他、法人会員については会員会社の協力も頂きながら組織的な対応を充実させることで、新たな会員獲得に取り組みます。また、寄付金につきましては、大口の遺贈案件等の捕捉はもちろんのこと、演奏会での寄付金募集のチラシ折り込み等を通じた地道な努力も継続してまいります。

こうした活動を通じ、2020 年度は事業活動の一層の充実、収支の安定を図りたいと考えております。

(2)オーケストラの体制整備

この度、3 代目音楽監督の尾高忠明マエストロとは 2022 年 3 月まで契約期間を延長いたしました。尾高マエストロには引き続き公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括して頂いております。

また、角田鋼亮マエストロには引き続き「指揮者」の委嘱を継続します。

楽団員の体制については、2020 年 2 月末現在 66 名のところ、中期的目標である 80 名体制の整備に向けて、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、首席コンサートマスターの田野倉雅秋氏が昨年 7 月 31 日付けで退任。その後、9 月 1 日付けでソロ・コンサートマスターに就任していただきました崔文洙氏と、コンサートマスターの須山暢大氏の 2 名と契約を継続いたします。

(3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去 14 回の開催により、大阪の秋の風物詩として、また 5 万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」を、今年度も 9 月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整を行っております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでも

ある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの3階席を学生席として25歳以下の学生の方々向けに1,000円という極めて安価にて提供しております。さらに、2018年度から「学生定期会員」制度を創設し、同会員の学生の皆さまには定期演奏会以外の自主公演の割引制度等を利用していただけるようにいたしました。また、2017年度からは、この3階学生席をより有効に活用するため、小学生等のお子様親子と一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売も行っております。

また社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動を行っており、2020年度についても継続実施してまいります。

3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

弊協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600㎡)・市民スタジオ(90㎡1室、40㎡2室)を、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

市民スタジオの貸室料金については、2019年10月の消費税変更に伴い改定を検討いたしましたが、周辺貸室施設においても料金の変更はなく、出来るだけ地域の皆様にも喜んでご利用頂けるように据置といたしました。今後も効率的な会館運営及び稼働率の維持・向上に努め、地域への貢献に寄与したいと考えております。

なお、竣工後29年が経過する大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

4. 2020年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

(1) 外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

これまで旅行業者や企業向け福利厚生サービス提供企業等と提携し、同社が運営している会員向けサイト等で弊楽団の公演情報等の掲載を進めてまいりましたが、引き続き2020年度も、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充実を検討してまいります。

(2)東京 2020 文化プログラムへの参加

弊楽団は 2019 年度に東京 2020 大会の文化プログラムの一環として、日本オリンピック協会が主催する「オリンピックコンサート 2020」の大阪及び広島公演に参加した他、大会スポンサーである SMBC が実施する「SMBC PRESENTS 大阪フィルハーモニー交響楽団 室内楽の愉しみ IN TOKYO」「SMBC Presents Autumn コン서트」に協力いたしました。

2020 年度につきましても各種文化プログラムの実施を企画・検討してまいります。

(3)コロナウイルス感染症への対応

コロナウイルス感染症の広がりに伴い、2019 年度は 3 月の定期演奏会を見合わせる他、主催者の判断により相当数の依頼公演が中止となりました。2020 年度につきましても感染拡大の状況を注視すると共に、演奏会場での感染予防対策を徹底してまいります。

以上

2020年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）
（2020年4月1日～2021年3月31日）

2020年3月10日

（単位：円）

| | 2020年度予算 | 2019年度予算 | 増減 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|
| Ⅰ. 一般正味財産増減の部 | | | |
| Ⅰ. 経常増減の部 | | | |
| （1）経常収益 | | | |
| 受取会費 | 210,020,000 | 221,700,000 | ▲ 11,680,000 |
| 正会員受取会費 | 188,420,000 | 192,900,000 | ▲ 4,480,000 |
| 賛助会員受取会費 | 21,600,000 | 28,800,000 | ▲ 7,200,000 |
| 事業収益 | 589,733,000 | 616,692,000 | ▲ 26,959,000 |
| 公前収益 | 307,921,000 | 340,871,000 | ▲ 32,950,000 |
| 広告料収益 | 45,000,000 | 39,060,000 | 5,940,000 |
| 入場料収益 | 208,404,000 | 205,500,000 | 2,904,000 |
| 使用料収益 | 14,500,000 | 14,900,000 | ▲ 400,000 |
| その他事業収益 | 13,908,000 | 16,358,000 | ▲ 2,450,000 |
| 受取補助金等 | 104,000,000 | 93,200,000 | 10,800,000 |
| 公的補助金収入 | 104,000,000 | 93,200,000 | 10,800,000 |
| 本利金収入 | 33,800,000 | 34,800,000 | ▲ 1,000,000 |
| 一般貸付金収入 | 33,800,000 | 34,800,000 | ▲ 1,000,000 |
| 雑収益 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 雑収益 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 経常収益計 | 938,553,000 | 967,392,000 | ▲ 28,839,000 |
| （2）経常費用 | | | |
| 車支費 | 953,568,859 | 978,369,849 | △ 24,800,990 |
| 役員報酬 | 1,193,400 | 3,039,600 | △ 1,846,200 |
| 給料手当 | 367,955,900 | 362,826,441 | 5,129,459 |
| 賞与 | 0 | 0 | 0 |
| 法定福利費 | 60,820,001 | 60,860,041 | △ 40,040 |
| 旅費交通費 | 64,930,916 | 82,414,045 | △ 17,483,129 |
| 出張費 | 176,309,000 | 197,469,000 | △ 21,160,000 |
| 音楽費 | 8,005,107 | 8,577,000 | △ 571,893 |
| 文芸費 | 3,111,566 | 2,504,000 | 607,566 |
| 諸謝金 | 3,136,000 | 1,988,000 | 1,148,000 |
| 会議費 | 75,922,000 | 71,406,000 | 4,516,000 |
| 楽器運搬費 | 9,427,000 | 8,609,000 | 818,000 |
| 外注費 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 |
| 宣伝費 | 5,474,000 | 6,000,000 | △ 526,000 |
| 印刷製本費 | 19,880,000 | 18,230,000 | 1,650,000 |
| 支払手数料 | 12,634,000 | 10,020,000 | 2,614,000 |
| 消耗品費 | 2,338,950 | 2,199,735 | 139,215 |
| 修繕費 | 2,735,600 | 3,203,400 | △ 467,800 |
| 賃借料 | 2,238,314 | 2,280,609 | △ 42,295 |
| 保険料 | 948,782 | 977,657 | △ 28,875 |
| 交際費 | 1,134,000 | 1,134,000 | 0 |
| 通信運搬費 | 3,697,296 | 3,811,517 | △ 114,221 |
| 光熱水費 | 6,705,850 | 6,857,580 | △ 151,700 |
| 委託費 | 7,068,652 | 7,106,408 | △ 39,756 |
| 減価償却費 | 24,177,875 | 26,600,583 | △ 2,422,708 |
| 雑費 | 12,724,893 | 14,556,369 | △ 1,831,676 |
| 租税公課 | 32,242,366 | 32,241,955 | 411 |
| 雑引当金繰入額 | 0 | 4,678,000 | △ 4,678,000 |
| 賞与引当金繰入額 | 26,020,350 | 26,152,850 | △ 132,500 |
| 退職給付費用 | 17,739,011 | 7,825,859 | 10,113,152 |
| 管理費 | 10,415,838 | 11,035,558 | △ 619,720 |
| 役員報酬 | 795,600 | 2,026,400 | △ 1,230,800 |
| 給料手当 | 2,003,100 | 1,725,067 | 278,033 |
| 賞与 | 0 | 0 | 0 |
| 法定福利費 | 329,999 | 279,959 | 50,040 |
| 旅費交通費 | 1,196,914 | 1,093,955 | 102,959 |
| 通信運搬費 | 382,704 | 301,183 | 81,221 |
| 印刷製本費 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 0 | 0 | 0 |
| 消耗品費 | 211,050 | 150,265 | 60,785 |
| 修繕費 | 64,400 | 96,600 | △ 32,200 |
| 賃借料 | 231,686 | 180,391 | 51,295 |
| 保険料 | 22,218 | 24,343 | △ 2,125 |
| 交際費 | 126,000 | 126,000 | 0 |
| 支払利息 | 100,000 | 100,000 | 0 |
| 光熱水費 | 694,120 | 542,420 | 151,700 |
| 委託費 | 575,348 | 535,592 | 39,756 |
| 減価償却費 | 1,864,232 | 1,830,994 | △ 166,762 |
| 雑費 | 1,198,107 | 1,060,431 | 137,676 |
| 租税公課 | 361,834 | 372,045 | △ 10,211 |
| 雑引当金繰入額 | 0 | 322,000 | △ 322,000 |
| 賞与引当金繰入額 | 479,650 | 347,150 | 132,500 |
| 退職給付費用 | ▲ 21,124 | ▲ 79,537 | 58,413 |
| 経常費用計 | 963,984,697 | 989,405,407 | △ 25,420,710 |
| 当期経常増減額 | ▲ 25,431,697 | ▲ 22,013,407 | ▲ 3,418,290 |
| Ⅱ. 経常外増減の部 | | | |
| （1）経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 |
| （2）経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 25,431,697 | ▲ 22,013,407 | ▲ 3,418,290 |
| 一般正味財産期首残高 | 370,815,670 | 399,411,601 | ▲ 28,795,931 |
| 一般正味財産期末残高 | 345,183,973 | 377,398,194 | ▲ 32,214,221 |
| Ⅲ. 指定正味財産増減の部 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 |
| Ⅳ. 正味財産期末残高 | 345,183,973 | 377,398,194 | ▲ 32,214,221 |

（注1）一般正味財産期首残高に關して、2020年度予算(2019年度決算見込)の額を、2019年度予算(2018年度決算)を使用
（注2）短期借入限度枠は3,000百万円とする

2020年度 収支予算書 内訳表 (正味財産増減計算書 内訳表)
(2020年4月1日 ~ 2021年3月31日)

2020年3月10日

| | 公益目的事業会計 | 収益事業会計 | 法人会計 | (単位:円) 合計 |
|-----------------------|--------------|-------------|------------|--------------|
| I. 一般正味財産増減の部 | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | |
| 受取寄付 | 199,805,662 | 0 | 10,214,338 | 210,020,000 |
| 正会員受取会費 | 178,205,662 | 0 | 10,214,338 | 188,420,000 |
| 賛助会員受取会費 | 21,600,000 | 0 | 0 | 21,600,000 |
| 事業収益 | 589,733,000 | 0 | 0 | 589,733,000 |
| 公債利収益 | 307,921,000 | 0 | 0 | 307,921,000 |
| 私債利収益 | 45,000,000 | 0 | 0 | 45,000,000 |
| 不動産利収益 | 208,404,000 | 0 | 0 | 208,404,000 |
| 使用料収益 | 14,500,000 | 0 | 0 | 14,500,000 |
| その他事業収益 | 13,908,000 | 0 | 0 | 13,908,000 |
| 受取補助金等 | 104,000,000 | 0 | 0 | 104,000,000 |
| 公的補助金収入 | 104,000,000 | 0 | 0 | 104,000,000 |
| 寄附金収入 | 33,800,000 | 0 | 0 | 33,800,000 |
| 一般寄付金収入 | 33,800,000 | 0 | 0 | 33,800,000 |
| 雑収益 | 798,500 | 0 | 201,500 | 1,000,000 |
| 雑収益 | 798,500 | 0 | 201,500 | 1,000,000 |
| 経常収益計 | 928,137,162 | 0 | 10,415,838 | 938,553,000 |
| (2) 経常費用 | | | | |
| 事業費 | 952,408,560 | 1,160,299 | 0 | 953,568,859 |
| 役員報酬 | 1,193,400 | | | 1,193,400 |
| 給料手当 | 367,937,690 | 18,210 | | 367,955,900 |
| 賞与 | 0 | 0 | | 0 |
| 法定福利費 | 60,817,001 | 3,000 | | 60,820,001 |
| 旅費交通費 | 64,924,383 | 6,613 | | 64,930,916 |
| 出張費 | 176,309,000 | | | 176,309,000 |
| 弁当費 | 8,065,167 | | | 8,065,167 |
| 交際費 | 3,111,566 | | | 3,111,566 |
| 諸謝金 | 3,136,000 | | | 3,136,000 |
| 会議費 | 75,922,000 | | | 75,922,000 |
| 通信運搬費 | 9,427,000 | 0 | | 9,427,000 |
| 外注費 | 5,000,000 | | | 5,000,000 |
| 宣伝費 | 5,474,000 | | | 5,474,000 |
| 印刷製本費 | 19,880,000 | | | 19,880,000 |
| 支払手数料 | 12,634,000 | | | 12,634,000 |
| 消耗品費 | 2,337,660 | 1,350 | | 2,338,960 |
| 修繕費 | 2,700,700 | 34,900 | | 2,735,600 |
| 賃借料 | 2,236,832 | 1,482 | | 2,238,314 |
| 保険料 | 936,741 | 12,041 | | 948,782 |
| 交際費 | 1,134,000 | | | 1,134,000 |
| 通信運搬費 | 3,694,848 | 2,448 | | 3,697,296 |
| 光熱水料費 | 6,701,440 | 4,440 | | 6,705,880 |
| 委託費 | 6,903,262 | 163,390 | | 7,066,652 |
| 減価償却費 | 23,276,985 | 904,890 | | 24,177,875 |
| 雑費 | 12,717,229 | 7,664 | | 12,724,893 |
| 租税公課 | 32,242,366 | 0 | | 32,242,366 |
| 繰引引当金繰入額 | 0 | 0 | | 0 |
| 貸与引当金繰入額 | 26,017,700 | 3,650 | | 26,020,350 |
| 退職給付費用 | 17,738,790 | 221 | | 17,739,011 |
| 管理費 | 0 | 0 | 10,415,838 | 10,415,838 |
| 役員報酬 | | | 795,600 | 795,600 |
| 給料手当 | | | 2,003,100 | 2,003,100 |
| 賞与 | | | 0 | 0 |
| 法定福利費 | | | 329,999 | 329,999 |
| 旅費交通費 | | | 1,196,914 | 1,196,914 |
| 通信運搬費 | | | 382,704 | 382,704 |
| 印刷製本費 | | | 0 | 0 |
| 支払手数料 | | | 0 | 0 |
| 消耗品費 | | | 211,050 | 211,050 |
| 修繕費 | | | 64,400 | 64,400 |
| 賃借料 | | | 231,686 | 231,686 |
| 保険料 | | | 22,218 | 22,218 |
| 交際費 | | | 126,000 | 126,000 |
| 支払利息 | | | 100,000 | 100,000 |
| 光熱水料費 | | | 694,120 | 694,120 |
| 委託費 | | | 575,348 | 575,348 |
| 減価償却費 | | | 1,664,232 | 1,664,232 |
| 雑費 | | | 1,198,107 | 1,198,107 |
| 租税公課 | | | 361,834 | 361,834 |
| 繰引引当金繰入額 | | | 0 | 0 |
| 貸与引当金繰入額 | | | 479,650 | 479,650 |
| 退職給付費用 | | | ▲ 21,124 | ▲ 21,124 |
| 経常費用計 | 952,408,560 | 1,160,299 | 10,415,838 | 963,984,697 |
| 当期経常増減額 | ▲ 24,271,398 | ▲ 1,160,299 | 0 | ▲ 25,431,697 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計間接外増減(一般正味財産増減) | ▲ 24,271,398 | ▲ 1,160,299 | 0 | ▲ 25,431,697 |
| 他会計間接外増減 | | | | |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 24,271,398 | ▲ 1,160,299 | 0 | ▲ 25,431,697 |
| 一般正味財産期首残高 | 312,230,714 | 17,167,628 | 41,217,328 | 370,615,670 |
| 一般正味財産期末残高 | 287,959,316 | 16,007,329 | 41,217,328 | 345,183,973 |
| II. 指定正味財産増減の部 | | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| III. 正味財産期末残高 | 287,959,316 | 16,007,329 | 41,217,328 | 345,183,973 |